東風流

七

紫子菴句藻

春之部

改正

生海苔のめるもあるべし初霞

まちぶせしうつの仁王のあるべし（臓）

元日の何やらしらの紙

初春の日

誰ゥ鬢（ビン）のもとゆるべし初霞

春来

元日や真の草履のかろ掬き

双葉の屋根ら[フタラカ]つる暁ろ[ア]ゝ

（村の名ろ[ア]ろ[ア]）

さすろふ音ろ[ア]ゝ[ア]ゝ[ア]ぬるとて

錦ゝの様うるはしの物うすゝ

今朝しろ[ア]ふ所先ろ[ア]ゝ人鏡草

吉頭巾烏帽子ふ拾ろ[ア]ふ花の去

朝鮮人ま聘[ヘイ]のゝ

さゝれ去唐土船ゝ日の恵

雑春

鶯の巣所ゝ水ゝ芹菜ゝ

地ゝ七種ゝ下男

処板ゝ古道具の幕ふ

早ゝ梅

綿[ワタ]儻[カミ]の小神の寒ゝ梅花

瞬[スク]ゝ敵ゝ梅毛

むゝ笑ゝ鳥ゝ

儻[カミ]

瞬[スク]

俗人の風流なるものの花

厠上吟

窓の梅内うち[illegible]鎖(カギ)をとりけるうち

蜘の巣まんべんなくかかりたる梅花

ある日所川昌都(セウ)宗近(ハのイ有べしう)まいりしに

鎌倉の神官大友の巣日正別(マサナカ)

昌長(タケ)まうでうあり食を清酒数則

夜閑(タケ)に二人ともに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水色

川ぶち鴉ぞ柳の南

紹巴法橋

玄草のうつぶれ物の雪

雪ふる頃ふるさとへいそぐ郡内
わたる雨ふる巻渡りみちる柳風

両国橋ゆふべの晴夜

茶屋〳〵の灯もゆれて水に
まち雨ふる中〳〵ゆれぬる油鶏
くるゝあやめもあるゝの書戸口
世中いそがうつう現もも
ゆめとも思ふべきなまれい

道ふる蓬〳〵見もする橋郡
隠れかゝ撞へも屋〳〵ゆ雀京
柳〳〵の函資
ふくゝ時野〳〵ほとゝぎす郡
老〳〵ふるゝ
〳〵ふる雨の鄙ひるゝ
庁嶋ふかゝ〳〵ふる茶摘郡
上巳

燈火の雛かな[illegible]

雛壇[illegible]八重の姿哉

花

いとゝ雨われや烏帽子の和歌花見講

[illegible]の人をたゝりて[illegible]哉

春山暮色

もの見やいつあの撞鐘[illegible]

つまゝ食一日義[illegible]食哉

[illegible]

花不顧名[illegible]當座仕[illegible]

[illegible]

義を穂[illegible]牡丹を晒[illegible]哉

後江戸八白顔巻頭

[illegible]復[illegible]哉

[illegible]

[illegible]

大膳のかみ藤原のうの歸ヒメうの

暮春　三月

蘭麝も紛れぬ川もとに

ほのぼのうの皂角カケの芽メも見しかな

紛れもなくうるはしく見えける鳥

題　鶯

拘セヤ脊のうちなれども

惜しうの



紫子養句藻

春来

裏に部

春のうの鶯ほのぼのうん更衣コロモカイ

春のうの夜を長猶亭猶ん

その旦くるふ道すがら更衣

武まいうをしく染つれうの

吹のへを馬上ゆしき捨うの

枯カラメチの露もやうやく若葉哉

[illegible]

奥ゐ一見のうへ人〻はこぶ

[illegible]細の道いこゝろを変の奥

[illegible]人のゝこゝろ奇花一すゝ

[illegible]

押[illegible]く花一輪の牡丹の形

肖柏老人の画賛

[illegible]の文字[illegible]いふ牡丹の花ところ

[illegible]ふ嵐の都　牡丹の形

義朝[illegible]

[illegible]の和の仏[illegible]

頼朝のうゑべか仏る牡丹形

[illegible]鳥化の姿のうゝれ帰

江都[illegible]一の極品

[illegible]坂か葉をとゝ青の和鞠

[illegible]器　[illegible]

[illegible]朝鮮人を衝(ツイ)[illegible]

[illegible]も肴(ウマ)る[illegible]

洞窟の陽未[illegible]育る[illegible]子規(ホトヽギス)

[illegible]月や部屋

[illegible]汗(ザヾボ)る

牡丹[illegible]れの色も仲秋の[illegible]

[illegible]秋[illegible]付やなる[illegible]

灯[illegible]や池のもみぢ[illegible]

[illegible]ウ[illegible]人の[illegible]子

蚊[illegible]あつ[illegible]撞の夜の[illegible]

隠題

[illegible]れ[illegible]滅[illegible]隅

[illegible]中や如雨露の[illegible]る音

江上五月雨

[illegible]舟の小の[illegible]やさつき雨

連日晴るるまゝ
未だ行にさみされつる夕の邨
懐田家労
早苗黒ふ馬の徒(リケギ)第や月毛
端午
惟るやうきの宮まゐ良
むらくさ
伊集の家ふ福(クレ)禮の幟う南

あるめ(ルケ)ふ一の郭ふ二の西輪(クルケ)
毎のうち例すうる時
行舟の見るる見や藻の日
一漫いるれく小石川の
當見まゝ
ふつつむるふわれカうわ
掬れい當まある流かの
ちあ

都のうちを西のはてまで
門を出て周を巡るに螢飛び
夏日のうちに
蟬啼いて枝にわたる声の丈
葉陰かくれなく咲ける蓮の
夕まぐれのあしたに涼し蜩
夜の蟬一口声のうつるかな
くれ竹の厩かむとふ牧をか



行くあめ　二

涼しくも牧屋を洗ふ月夜かな
風の涼を月の宵闇の蝉のうち
昌都宗匠の庵にて遊び俳諧の
会の所をわかるまれい前あり
眼前の一樹
卜圃の柳をうつす宵の月
脚すまとあり略す

賀茂行

[illegible]ちも鹽かまの火を焼む

晴[illegible]夜

[illegible]の国[illegible]白雨[illegible]雲の邊

扇面　馬[illegible]儀[illegible]

雨[illegible]儀[illegible]恵よ

[illegible]人も一儀馬のうへ

温良恭謙議の[illegible]譲の[illegible]ある

[illegible]

羅[illegible]きもの[illegible]人のあるを見て

柳橋の川[illegible]信[illegible]時

[illegible]清[illegible]

金[illegible]梅[illegible]

[illegible]扇の封の切[illegible]め

日[illegible]

泡盛の風[illegible]

夕暮の[illegible]上の衣を吹[illegible]

[illegible]と船のゆきかひ[illegible]

人待名れい

[illegible]

[illegible]

路傍

[illegible]節ふる餌の暑ぶ

夏中立秋の夜

[illegible]の秋を牧童のうち

紫子菴句藻

秋之部

立秋　春来

[illegible]今朝の秋

[illegible]の雲ぬけ[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月[illegible]

之巧　甲斐の国

寒く待ぬこ殷大根あまの川
さし鯖の妻や蓼酢もふの姫
いるるん銀河に流れて冷き夜
すしわるこは西瓜のかぶせもの
まるる観上ろ西く青松禅林の
一灯をかつて見る
われらふ声も樹間の燈火

[illegible]
[illegible]妻や[illegible]
いるる[illegible]
うるふ[illegible]
ある時
[illegible]く灯火の房か秋の風
わ[illegible]の[illegible]
[illegible]の朝[illegible]月の空の南

蟬の聲四方の色みまれ

得謙字

蟬ときとゝ[illegible]

蓮椒[illegible]の魂[illegible]

[illegible]棚[illegible]秋の[illegible]

[illegible]

山姫の[illegible]

秋ふかき[illegible]を[illegible]の人也

[illegible]月の靖かなる[illegible]

[illegible]海の[illegible]月見[illegible]

二日[illegible]課[illegible]

名月の[illegible]根小石[illegible]

[illegible]州[illegible]

[illegible]月の[illegible]

[illegible]おの[illegible]

[illegible]月の中の[illegible]

大橋ヲ左ニ遷ル

海ヲ入ル筋段ヲ去ル山月異ナリ

四月わいつゝゝの銀屏風

月ハ山出ル

新月や鶏とちゝ宵の色

天ハ一ツ

月黙ゝ春ぬるゝ物ゝ

落月

伏猪ゝ朝飯ぬぐる月ハ

ゝゝ洪水の秋 記有畧

ゝゝの代ゝを春ゝて秋のゝ

專澄ゝ水樓ゝ讌す

ゝゝ花撫ゝふ夜月ゝ

ゝゝ湊のゝゝゝゝ

伊勢ヲ天井低ゝ雨夜の

小田の今町家のゝと帰ゝ

一夜こゝに宿かりて

初かの尾紅のまくれかゝるあゝ

門戸小風のくゝんすゝ鳥

田家こゝろ

あしい居の秋やひとり役

斉藤やまゝ葉しまるも

山行

赤い実の名案してゐる山路外

重陽

菊の花九日大根の葉もめくる

推敲の句の句の句の句の句の句の句の句

南部こゝ始めるれもるふ

菊の香の僧の同の八の奥

偶居こゝろ

こゝ咲こゝ畠の奥のまゝ隅

[illegible]の[illegible]の花
[illegible]のうち[illegible]
[illegible]枝の[illegible]
謝して再会を[illegible]
[illegible]の腹を[illegible]麦の花
小初[illegible]門くるる[illegible]の[illegible]器
[illegible]と霜[illegible]柿の艶

后月

垣離取の声[illegible]戸[illegible]十三夜
梅[illegible]月[illegible]葉[illegible]
[illegible]の端[illegible]とわれし[illegible]葉の器
[illegible]
[illegible]枝[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の題[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乙巳仲秋

良夜馬行　辨[illegible]暑
[illegible]
[illegible]の晴[illegible]
[illegible]の[illegible]風一[illegible]月[illegible]　蝸名
途中[illegible]
[illegible]

紫子菴句藻

冬之部

春来

秋の鳥ものうくなりて神月
大鳥のうきれてわかれかなしき邨
初冬の蚊遣て葵刈る谷の声
傘のうへに小雨ふるなり
冬のうち濃くなる雨ときくの花

閑下夜話 邨安

蝙蝠の巣くる音わびしく夜晴雨
土黒く夜時雨の日は黒し
雲宵の錆古き落葉かな
焼炭やもゆる浦山の菜の匂ひ
ふかさとの富士をわたる秋の雁
鳴くとのうしろ鳴くとうれしかな
仙人の菜一つ食べる貧

自性

廻板のうしろ海苔の見ゆるか
解家とりくるる
靴汁や母のいくめよのそこ
市聲

青青としかれて鴨の名
野ものやめられて妻の鳥
須のまくれやきんさ
夫婦赤の車をくと食べる

一夜逢之是こそまつの合歓木なれ
[illegible]
[illegible]
輪廻ふ[illegible]
[illegible]
朝[illegible]
[illegible]の鼻[illegible]
[illegible]

連雲

[illegible]
[illegible]
[illegible]
藤原の保昌ら[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の如き口取草履取
[illegible]雪[illegible]りしき家い繪の減
[illegible]の雪が国[illegible]
灯[illegible]獲[illegible]の雪
[illegible]古き板屋の[illegible]
月[illegible]雪[illegible]れ[illegible]古庇
[illegible]人の中も
[illegible]屋頭の[illegible]山[illegible]

庭前
先[illegible]竹を化れ夜の雪
陣家
[illegible]の[illegible]を踏る音[illegible]の雪
[illegible]
寒苦を[illegible]眼前[illegible]
[illegible]二面の銀世界[illegible]
[illegible]雪[illegible]

寒夜三句

荒海を衝てくる夜風板屋ぞ

柳ちの木のまに入る夜や川千鳥

氷鏡にさよの下や帰らう

某々童にあそれて

鬼見きやうのそこ稲神番姫

冬されの木母寺に消て名のし

於小隅田川の黒きしとと



白居のしもゐるくさめる紙子かな

ある人荘子を講じけるにふて

大雪みて妙恵の人稀にや席上

に猫ちくりつくまする　於しくくく

聞くきねこゝろの猫の耳寒し

海荒をこいつめる紀冬のまほらかな

歳晩

唐松の枝戸につりる師走かな

[illegible]
時雨や　今宵　三百六十盃
夜くい　[illegible]
[illegible]
梅探る　門伝探る　[illegible]
月雪の　[illegible]

目次


春來　獨詠
神祇　釋教　戀
無常　哀傷　羇旅
述懐　懐旧　祝

神祇 え部　　春来

元日ハ拂そめ遠の禊うば
うつのしるしふるさと初冬のころ
新門 光尾太神宮詣
感得のしるしの梅
ゆるしを有の一字やと安神月
會津 蒲生戴天神社法樂

まちしるふ酸くうの時こ春花
麻鳴詣
拍手ふ名ちの雑も答ん
下總安波社頭奉納
楠のうちてむさふ神の長
両部習合
初年の咒ふ有とおもふ月て
孫会鳩ら異めく

## 釋教之部　春来

照見五蘊皆空のこころを
探る村もとゝ部ゝを風巾
山門ゝ酒ゝ句ふ堂菓ゝ
賢寒山拾得之繪
掃ゝ拾ふ人の行ゝ憂の日
達ゝ會ゝ虛松ふゝ鳥の声

蓮摩之や油揚の棒ふとん

ある時僧のいとめを拒む

佛かハ[illegible]め食ものの河豚汁

め[illegible]かハ[illegible]

ヒイニフウニフンタンタルヤハヨルモヒルモ

アカイツキシカンフリスマイメイカたん

コトカ

十唱句合ノ内ニ　千寂老人

寒明けを撞木の勝をおく音

[illegible]仏句を[illegible]れい布[illegible]　春來

白馬入蘆花[illegible]

明月の戸傳[illegible]穂かゝるまく

戀之部

春来

木ト濃州にて[illegible]寄梅恋

[illegible]も梅の[illegible]

堪忍[illegible]

[illegible]の周[illegible]の添ふ

[illegible]

[illegible]の[illegible]

川風さしそゝ

[illegible]の柄袋

寄綿恋

[illegible]と書ふ[illegible]綿ふ

[illegible]の書をとりて[illegible]

[illegible]人の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]餅

[illegible]

[illegible]

無常を祁

春来

飼猫の掻ふをあらはむ
猫の間犬一口ふ喰ひてけり
朝ごはや一輪りいでしら用ん
乾けやうして金い入かくろ

延享三丙寅年二月十六日春来卒
年齢四十九安名義山道智上座

於深川法善寺葬之導師冥雲禪寺禪巖和尚　　円位上人

行くゝ花のもとふる雲ぬるゝ
ものゝあはれ月ぬれぬ

辞世

活るゝ死ひとふ花の後る日か

哀傷之部　　春來

古人洞中生世の時あるくの枝ゆか
まゝ敬て猿るる葉い枝ゝ世ゝ
れい縁者のもゝしあゝれ涙く
ゝゝれいゝふゝるゝの人もゝゝ
老母中信ふゝゝゝるゝ
連歌養日ゝ

[illegible]師母の[illegible]

[illegible]

[illegible]

昌都宗五

[illegible]花かるまれる[illegible]

青蛾雅中文の母の[illegible]

[illegible]

宇佐
五箇

[illegible]人[illegible]母[illegible]門[illegible]

亡母悼

老母未期[illegible]時禪巖和尚有一問

答 呵々大笑即如眠

松の上数[illegible]数の[illegible]青

亡姉[illegible]

[illegible]

四騎旅之部　　春來

四月拔峯之節の勢くとまる
酔つゝや君を海とする日の躑躅
醫師古園を訪ふ
春くる夜わらうらうと聲しき
細川公御首途を見送りまいらせ
がつをとろ今や拔穀の花の時

わかのひとをはらへい
西行の穉いを移もすを世わ
門生渭北の一盞をとろう
錦ゝ一盞をとろう
ゆくとしや人や新しき江戸鰹
ゆくとしや人の美別か行再會を契る
又あうと無とこゝは若葉のうらう
四しく一献をとゝむ　　秋

鎗持の笠を置かせて
行德村紀吉法師が儒醫六味湯で
とまる止宿わらじのあ鶏の音
めるしもきれい拳ゐかせて
雅敲くあの風呂の掛うち
箱根の浴場をあくるあの
又もまんじゅう清あの底ところ
おなじく給仕をつとめられる

小田原を出ぬ途中の冷
今朝まくらのなかなりしや時雨の味哉
長與山上
笠の蟬寺をとうつく登り
とくとくたい堂ふつる
ともかくきたい蚊もかく蟬もなく
きく御茶壺の日のうとく宿中
きめる元政庵の紀あり

しな定まりてすへて海道の男女
御茶壷様とふ御勝のこゝ也とゆう
の酒掃きらひやかなれい
豆う日ふ御茶とふ志かき掃除ふ
大いそきる驛ふ仰く
真帆片帆見ゆるまゝく宿の艘より
高き風のあたり
砂かうし暑ふむせふいきう松

下畧

鎌倉紀行之内
かまくら川みく青砥藤綱か
いりしつを
まことを今も滑るやのまつふり
顔色
関守の燻を擢る大くらか印
駿河のふししけくゑふ風土の

清爽なること歟しく
萬わらハ画きし於けり田植の卯
詠子浪速しけくと
盃頭巾天窓のうへのあつ雨か
烘炉なかなる庖丁横ぶしく
我家に向しさる焚十三庖
生涯猿似らるかる絣
ほまゝしらも　文章わり　畧

# 渡唐之富士

雪舟そのゝ明朝に入て於ほけ
なくも勅に應して三国第一山と
画く又一紙を書して枝葉に傳へ
まるむしろ細川の豪家に
なく希代の寶なり和漢二幅
の神画なるし　字　つさし形く
今東集の彩飾となすもの歟

贊　明人　仲和　花押生畧之

巨嶂稜層鎮海涯枝葉堪作上天梯
岩寒六月常留雪靜似青蓮直過氏
名利雲連清建古虛堂塵遠老禪栖
乘風吾欲東遊去特到松原竊羽衣

清見寺

眼前之筑波

述懐之部

春来

[illegible]の露の[illegible]かわ[illegible]一葉[illegible]
いと[illegible]羅[illegible]ふ[illegible]の世捨人
霊[illegible]
[illegible]月の部[illegible]九[illegible]
月見れい水[illegible]

[illegible]の退屈の時
[illegible]の牧かまを[illegible]
[illegible]
[illegible]の奥の牡丹の[illegible]
獨居
[illegible]
[illegible]
[illegible]

病中このひろ式時
面見まわ秋もか科このかろ合
臭いとも人間まる低子ろ卯
ゆろ色謝職の者も理屋ろ為て
うるへまりきれて
ひろ間の薬鑵ろろ食の昏

懐旧之部　春来

甲冥ろ秋の阪川崎田中氏の寺ろ
入てひろふ古人東潮の妻路塚を
訪ろ心ろ行るるるれし人ろ
ことも寺のろ体よ妻路ろ
屋号ろれと寄ろ書拝す
路なりとろ人ゆの稲穂ふ

先師六盆青峨居士挽句并
自一周至十七回六句

庚戌冬十一月十三日申刻卒
葬於深川行寺

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中陰[illegible]句立碁 [illegible]

一周

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

下碁

[illegible]

三周

往生の平生と行ふ

山茶花佛のぬきの生ける

七月

霜もうつくしく葉ふきの

十三夜懐感

[illegible]も消ぬ名のみ栖の霜

十七回

偶然として十七年忙然として

手世三歳今日小しく既に

生白ともか彈指の光陰を

獨笑

秋も永月雪老ぬ涙のうつ

年中亡父年三回法會の

[illegible]

親竹と奈るんの去行う卯
ゑてみまくらい廻る曼帯　柔仲

本國勢州下箕田産
亡父前田姓菅原喜重入道淨清
寶永乙酉年九月五日卒行年五十五歳
丁巳季秋正當三十三回追福之弁祭文畧

黙菴青峨
淨泣九拜

義雲の死のくるみなく音ふ
古さとの家新霜枯る白菊
小夜砧母しらぬあのうら笛
丙寅のしら月ゆうの月
母うせしとせ月ふかうまね懐古の涙
七日さつ〜ん百ゆうる
七夕の昔ゆれ共もあの七月
ゆうれい正當十一月ふうゆうゆう

二親のこゝろふかくこれの味

下畧

亡姉一周

延享四丁卯二月十五日

春来一周追福

きさらぎやきさらぎの鳥の帰る日

春來

祝

万歳万歳

万歳

芙蓉梁賜宗悦山人

四季發句

李井菴存義

夜明けはわたり掛け民の出
榊擅ふ二筋むくれ初うてこ
何ものと一つ喰へ美菜摘
かくき年夢覚へて帰迫ふ
小僧ずけ教ゆるて部屋
子規まつ里ゆとつ鄰燭

六月雨の夜に花の宮殿の山
ゆるぎなくめぐれる
人もうれあらしもすさまじ
馬蹄今宵の月の味
明かに骨つなぐ行の躍の形
稲妻に門を蛟拓く南
新月の見屋の鎖の鎖
ぐるめぐる破れる家の垣

ぐるぐるとくの情や喝の風
蓬の音や身をうる山の樵夫
一色の蹄んぐ千種の花れん
子を抱ぐ行月かぐや辻角力
ぐるぐるいの葉も苦しもれを抽きを
炭俵われるし老ぐる洞杉子
落葉ぐるぐる武昌かぐるわ後堂
靴揺ぐるよいわゆまるる僧さか

[illegible]ふ入の湯殿あり[illegible]深冬[illegible]
寒いろ〳〵清[illegible]や蛸のあの通
前[illegible]ろわ[illegible]や大桶の接ん
[illegible]
[illegible]川やうらも信[illegible]やと鳥
[illegible]知[illegible]の紙子や
一[illegible]の鼓ろ[illegible]や　古男
[illegible]の時を[illegible]

四季発句　　權道采仲

若[illegible]や明け[illegible]下郡の初対面
鶴[illegible]いろはふ[illegible]る旦の卯
いろの[illegible]　六盤先師元日の雪とみて
春[illegible]も雪の朧[illegible]や　松墻
秋[illegible]の雪[illegible]
川上の初午[illegible]川の[illegible]

[illegible]

[illegible]

後江戸八百韻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

當麻　車僧　二句

蓮のいと痕のほのぼのとうれし

元義のゆるぶる車やさつきぞら

[illegible]

いろ紙のうるやる世ちや星まる夜

朝鳥のあるとこ花ふたうれし

[illegible]

[illegible]

新居

年経ても今百八月の新を喚く
蟬のなめる夏や月も霜
小もしきもふれて演千鳥
初霜や岩ゐ訪の瓜ちる
年つきの師走やしや覚書
長まきわつまる年を庄紙
箱入り山吹師前ちしのれ

四季発句

時雨菴渭北

百姓しわるる日あり初暦
春雨しの夜の鳥やちり炭
梅の香や伏猪もつ残る時
梅ちるや行と雪ふ橋
柳の葉ちるや古井のす煙
竹ちるの花ちるものく

夏日両国橋ト水掉さしく

まぐ鯨一くるかとみるまに

鳴鳥帰るや鶴の眉の霜

撞ぬ鐘つくく青ゝ月雨

ぬれのみ鯨も人の国ゝ

ゆ梁の水も満ちもの月

高灯籠夜ゝ露の仲ゝ

一年箱根早雲寺ゝ詣て

宗祇師ゝ教雨老人の両碑ゝもふ

更ゝ山ゝ葉ゝ露時雨

卯ゝ麻ゝ大和尚

到誰家

ゝ枝ゝ時ゝ馬の髪

# 春之部

巖戸うゝ鎧の音の紀今朝の春　玄奴

板橋のきさらぎ曲言

八千代もとよ東風の沢の春　調學

見そめ小麒麟もかむ御代の春　立志

くゞ雨るゝ年賀深きふの春　祖調和

御産の向掛の葵り松ゝう　幽山

震のも声うれしく雲雀の卯　捨翠子
生海苔もめ〳〵ふるの歯切の卯　砂汀
鄙〳〵行く訪くしるの柳うれ　笠雨
万緑や輝かしき色柏子　梅郊子
青柳の風とんと見まうれ　茂陵
帰雁の夫橋帰帆
帆〳〵と白く繋ぎ飛ぶ夕霞　沖向
百舌百舌ら雀や斗の長　古友以
手所田や鳩の膜ら日の暉　諫子

捨てある畠ふ梅のうらうれ　青城
柳の木さうはしら夜の梅　関宮　阿誰
朝夕の揚げるあわれ梅のふ　琴香斎　曙雲
青柳やみ〳〵と上るの下駄の音　宝帯子
舵きの色うるめん若菜道　米舟
琴の由とるわ柳とつるの島　青藍
紫平ふうきこの味噌の梅見の卯　梁宜
茅屋の〳〵茅屋拾ふ毒の花　可客

き柳や女こころを折りて切　米山
わくらばやさうふの氏梅を居る　雲卿
寒声のきひのしやや朧月　臺簫
ゑり島ふやうをえらびて梅花　可圭
盗まれんふるやや猫ちん　甘棠子
香を拝の道のしるべや梅屋敷　麥天
真きをくの員の若菜　水路
野梅をくゑるくわるや上り道　沉水子

枝のさけりの梅花　其角
下駄ふるふる見りて知る梅屋敷　蝦定子
七種いくのくの青ふる柳　万年
花の名の柳ゆゆしふ色の柳　積雪堂　柳車
田ふるりふ遠ふるひの梅　松羅
青柳や新ふと何代の向岸　旦孚
春ふとふしふ見ゆふる梅　白太
春鳥の中ふ柳のふる柳　半里

當り繪かうとて　上総武村　壽脉

野もゆめかと雨ふる蛙うゝ　松韵

うつゝかいなくて蛙のうく音か　常陸白井　米曉

きんぽうの　まとゆゝしく　力石　米雪

春雨の軍　ふれて　幕の　撞　米壺

梅の香の　きとゆゝしい　屋ねの　松陰

行られぬ　夜の　ゆゝしく　大根　長猶

猪人も　行か　殿　梅の　花　常軒

法をひきまくらの戻る柳かな　龍眠

一すじに　ふるうと　知る蛙の　来也

初年や　青ぎと　茅屋の　卜莊　青郊

ふる年の　市賣も　ひゝく　蛙　専化伎　銀助

初夕や　日の　八ゝ　林も　いく　小　竹尾

ふる年　暮　原も　白　梅ゝ　至青村　白清

業平と　高帽子　親ゝる　蛙ゝ　南花伎　壽來

三井晩鐘　春風の　海へ　ゝる　夜　鐘の　声　冲雨

紅梅や天下の春を奏する　茅郁
白梅や鳥も見の端しらう　巨洲
鶯よたゝふ風けや古今集　龍眠
初手やみたの中のうぐひす山　百宇
鶯や夢のうくの谷さくら　百峨段　紫傘
うぐひすかもつゝ三段つゝ菜畑
酩酊くゝ同うゝ鶯や　梅陣　春里
ちくのうるゝ花の仁王の力紙　畔李

曲水の水流まりかまれ　青洲
水ぬるゝ蝶の声ゝ櫻　沾路
蝶のの雲はの風や山さくら　万字
雲の花の山路ふ人の歩　心色
ふ別ゝ皆ト戸ゝ生山さくら　潛魚
鳩ゝくゝ七日ゝ出ゝ陸の邪　茅婦
野ゝ野ゝ行鶯の鶯の声　青屋
日のゝ出ゝ沙千里　千里子

九の月の月の紅葉よりの姫姑　茶德堂
漫くと帆をおろす風の巾　茶外
春雨の香爐のやうに霧ふる　光車
帆かけて岡と隔るかすみ　溪梁
低雅の号も代の二けしら　雪堂
十斗蒔しら今か紅の蜆　九鳥
朧夜の名のみとされ星の声　亀成
渡り棹の波の二月の海の底　蕉渓

江戸年慶の山さしまるれる　露言
四つ屋の都も花の雪ところ　春詹
山さくらやうふ敷る器のく　さくら
あ湯ふうつる櫻ゆかりの　書来
春毋戸の紙の紙の
こうこうこうこうこうこうこうこう
狼の呼音凄し　山櫻　大雪
こうこうこうこうこうこうこうこう　和歌の浦の森羅　森羅

花見ちよかし山の春雪ふ　錢丁
みちまさく人かくれぬ櫻の卯　花雀
花ちるを[illegible]ふ敲もの　琵江
新夏さく[illegible]の櫻の旬　仙魚
白雲ひくく眉のあさき　其風
光花の咲くに得むと暦　榮夫
罪る日の雨もあく櫻の卯　珪賀
酒臭き人か解ふとやちる櫻　三千觀　芽山子

黒朝霞さくの陰ふ体むさし　祖調和
かくしの命ち午の助　一松
きさ汐干草霞し海と波と交　卜尺
わ遠や風わうる花の山　嵐雪
けふ濤さと紅梅い日ま　桂　凡鳥
行春や遠つ[illegible]谷ま藤　春潮子
杖と人か花と畑の麦の卯　沾古
ちさ吉ひ[illegible]ちきや藤の棚　正友

[illegible]所の草 古 山夕
[illegible]の音 我梁
[illegible]町 寸夕
[illegible]を休 調古
[illegible]の間 太岐改 默俞
[illegible] 兩義

夏之部

[illegible]四月 雲卿
[illegible]更衣 春潮子
[illegible]青 更衣 祖 調和
[illegible]袷 サ 多歌
[illegible]牡丹 如格
[illegible]牡丹 具風

[illegible] 柳車
[illegible]の寺の[illegible]る視 因幡文樓
[illegible]の郭公 菓豊
[illegible]ふ[illegible] 芽岑
遍照[illegible]墨染やかとき[illegible] 百菴
都[illegible]る山[illegible]若葉時 我栄
梅[illegible]鶯月の宿と[illegible] 森羅
郭公[illegible]なみなれし 唱是

[illegible]鳥 寸々
[illegible]千里子
[illegible]杜鵑 昼夜坊 文尺
鉞の海も金[illegible]若葉の卯 可容
[illegible]の[illegible]郭公 茅山
[illegible]蜀魂 麦天
杜鵑[illegible]吾妻男の眉間[illegible] 羊蹄
[illegible]宮の[illegible]樂男やとり杜鵑 砂汀

[illegible]の音[illegible]　鯉　灌菓子

社宮二日の月を探りかね　亀成

みん[illegible]の仙[illegible]

[illegible]の後の[illegible]　白清

[illegible]や初[illegible]　井性

[illegible]の[illegible]　梅郊子

[illegible]を[illegible]　安士

[illegible]代や[illegible]　文睦

[illegible]の[illegible]　青屋

[illegible]の後[illegible]　阿誰

[illegible]の[illegible]　青城

[illegible]の後[illegible]　長精

[illegible]　水路

[illegible]　朱計

[illegible]　相州芝ノ湯　茄栄

[illegible]　万字

中しら雲にうつる田植哉　素堂
あやめ葺く軒の翠のされのこと　桃青
いとゝよのまの筋見えて柏もち　其角
水月雨や障子に壁のわる音　畔李
きつゝ入ん笠置しめ月雨　其雪
御堂池やめ月雨はらく岩ね合ね　露甘
そう橋やちゝねの花むしあり舟　露言
新雪の夜すがらまたれた東山　青洲

掃除くゝ方て地ゝ月雨　龍眠
ゝ底ゝ鳥の声ゝ茅葺ゝ邪　紫傘
糸ゝ〱ほのあゝ山の皮　岱雪
扇賣土用と賀ゝ重もゝ　調味
図し個代ゝ冬のゝゝるれ　不卜
ゝゝゝれゝゝたゝ金鐘花　麝香
月の新やゝ山のゝゆく蟬の声　大雪
石門のゝゝも蟬のゝ傳ゝ邪　其暁

初蟬のうつまく色や梢より　禾字
うつの世ふかるる色しる雲ふか　半里
早苗なる世ふかるる雲ふか　松羅
五月の雨岩ふるる緑つもる　桃青
ひるの月の通い草鞋かはかり　蝦定子
蝉なくや暑さ峠のうん太　諫子
鮓なるあく漕ぐうしろ雲の舟　禾郁
ひるのうつと来つる剥ぐ鶴鬼の　素外

帆とうる朝の雲ふる風　其角
行くうつ浪の白布十端帆　松意
川越の渕と投もうむの行　不門
蝙蝠の稲の曇るひかりと　春磨
有感
抑うつの世と道れる牧笠の中　拾翠子
鈴鹿山ふる掛の蟬ふれかう　云奴
常燈の新しゆうる暑の邨　青郊

宗于内書[illegible]と[illegible]松　再馬
百[illegible]と吹清[illegible]蓮[illegible]　百和
小[illegible]
景清[illegible]　青藍
山[illegible]の濁[illegible]清[illegible]　米婦
[illegible]　米舟
[illegible]織[illegible]世[illegible]　凡鳥
[illegible]竹の[illegible]　臺箭

宿[illegible]　百大
[illegible]　梁冥
[illegible]　花崖
南[illegible]　琵江
[illegible]　素朴
[illegible]
[illegible]の清[illegible]　旦厚
[illegible]今[illegible]　銭丁

荷の野人ひとりくれの鶴の巣　八十首　梅戸
船もとめ橋のゝ岸と矣う邨　采雪
あとの山門の松の人ましみ　栗也
鶯ひとのくれ鮮の岸の峯　栢逝
蓮の雷やくの前をゝ山うゝ　茂陵
夕夜の雨栗はかれ夜の　沖向
金ゝうゝの笠のトまゝ　地青
本町もうゝ表ゝうんと鳥　百宇

河骨やの濁りを窓けゝ　光東
咲ゝ情ゝ居ゝ撫のわれ　溪梁
ゝ蛙は神ゝ寝る霞ゝ子ゝ　翁来
鶯の邨行のわれ民押　万年
墨百合やゝ色ゝ赤ゝ色ゝ　卜夏
蔦雀ゝ声曲り中ゝ小舟　習ゝ
ゝゝゝゝゝゝを僧の扇邨　春川
千仏や雪跡い犬わ寝れゝ　黙亦

古蹟にしく夢のやどれる邨　百花

夕ゝの土の山のあなたの白し　今友以

四万板の日沈山い松の風涼し　壺堂

回楽の門の車とゝまる川　畔水

流れ入る水の便りとゝまる川　試川

生ゝ〳〵鮎車おろる板川　可心

是紙や清き章川の日〳〵御板　言友



## 瀧ゝ部

ゝのみまく拾ふ今朝の秋　茶外

年ゝゝの竹の葉風やきゝの瀧　幽山

朝日の紫の花まん池　米山

川柳ふ肩と倩とや星の涼　壽林

日ゝゝの宿い走し樹の音　光車

わゝゝやまるゝ花雲霧　井蛙

紅葉の錦の母しの衣　海童子
やつれめかぶる風の遠蔭　羊黄
星合の空へ嵐吹きたる音　巨洲
夜を待つる秋ぞ待つ銀河　青屋
更ぬる秋人の勝るる山の声　森羅
朝顔の今もやうすき雨　泰鴎
牛ぬぎ賞めまの川　千里子
利鎖い沿ぶ出しぬ　阿誰

雲清き日の暮るる躍り　錦子
小さき縄の如き蓋ふ者の弟子虫　黙斎
風吹き変ひ吹く西風の　和来
さみわ立つ山と鳥の　臺簫
鶴ふ吹き水長桁の社の枝　紫傘
神馬　月わ立ちふの月も　牙山子
石山秋月　石山の月のひ見る秋の　沖向
対ぞ立つ親ぞ立ふの月　松羅

猿の目を乗こえわたるもの月　楚洲
伊勢いもせ清き田に碓の音　雪堂
孫人のつまをもとめるもの　虎文
巳の長しを御仏の徳の音　信章
下をたたく音とわる碓の角　大宮
まゆの三日とのこるもの月　其角
雲とすくいのる指わたるの月　梅郊子
頭巾をかぶれの今日の月　麦天

月代をよ雲をもとめる秋屋　其風
ゆ稲の朝の月もいく月見の邪　猿身
屋の風入日も秋のゆふべ　万年
蜻ゆ伊勢利の月の邪　素勇
稲妻ハくもりて雨の海の邪　百宇
きのふきふ長ゆ寒し秋の風　男也
芋猪師馬糞ゆ雲月　不卜
名月の月の関屋の里の月　米舟

日のかたぶくまで紫もえ月のうと　其木菴 伊十

屋根とあるやの入まうの月　羊里

明樓の月見の舟を陸つり　風吟

異灯も秋の生れて鳴く音哉　龍眠

稲まの見えうら西を秋乗道　可容

三度作るうの煙ふきまれ飄の中　倫岡

天色の月もうとうとあるもの月　望宜

須磨まい平家語るく月見哉　花崖

君を携へて

名月や人の鼻毛の秋鼻毛　百太

黄昏風のあれ物ものの軍雀　文睡

八朝の雲見の四面の秋の色　青城

深草のうくれのうの色の一草の秋　米婦

遠ふけ花ふいふ花ふ花ふ花ふ　青藍

見の西峯の研の初の月　柳車

三四代高尾と見るるの秋　角長

待ちつる巨燵ちるる夜寒哉　拾翠子

[illegible]　春麿
[illegible]赤蜻蛉の[illegible]　青郊
月今宵鶉[illegible]　希凉
宮樹より関ハゆきし駒迄　云奴
秋の月窟中の白妙土用干　幽山
芋を昔偖人[illegible]月を[illegible]　兼豊
[illegible]の農人もわり菊畠　東郷
[illegible]のうつはもの　渓梁

[illegible]田久照
[illegible]赤蜻蛉　冲向
[illegible]垣乃りくい烏瓜　茅都
[illegible]
[illegible]十三夜　茅德子
[illegible]ハ市の珍山十三夜　翠峨
[illegible]　我梁
[illegible]の月見と行の味　蝦定子
[illegible]珍竈　万字

稚子知れ家の嵐のもきこゆ　亀成

夕霧のうすもとゆるる時の間　畔李

乳とのみ母の家のもゆ人の見　白清

いり雲の嵐の間絶ふの月　玄癸

遠の見るくれ宮やしの声　青川

初しやもの年のくれもあるけ　雲卿

春月の孤も絶の多の境　智ゝ

大蔵の金龍躍く菓の例　露言

[illegible]

赤鐸の見も拘ひの渡の秋　書来

年待の鶴わるくも遠山松　松意

さしの鈴の一葉のうれく薄　泉舟

堅田落雁

出すくるく堅面とこの雁雁　冲向

雪雲の柄杓ゆくも菴の邨　潜奥

秋のくれ頃の吟くも毒くれ　呆曉

春月のすくるくも三ゝ山　楽也

れいこの月ちる数賞ふ　未計
雪の音の窓をとゝく桂の門　壺堂
一輪の菊の重さよわゝ男　琵江

天満宮奉納誹諧千句興行之起言

天の下名をとゝ数をゝ菊の秋　大渓
ケ様の絶合をとる山ゝ　仙奥
まつ高の光を所と立面の　水路
猫ふんゝけゝ雨露の雨　采壺

玉地の沖蓬ようきくの花　甘堂子
塩ゆゝふ弥るゆゝれの光菊　采男
鶯ゝ風のゝゝゝ鳳鶏ふ　春潮子
山里ゝゝの穂ゝゝ梁　壽文
ゝの二斗ゝ雅の猶ゝ　沾徳
ゝゝゝの色ゝ岩のゝ　超波
山の月ゝ鳳の所　砂汀
春の音ゝ民の他の玉ゝ　茂陵

雲を着て木蔭も酔紅葉かな　諫子
苦枯の初もみぢいかノヽて　文東
賽銭の米尚く寺のもみぢ　旦雪
紅葉焼く器物も間とすもみぢ　一鉄
龍の都かへるもみぢ　琴風
燈火の涙ぐむ暮る紅葉哉　長梢

冬之部

もみぢ葉の眼玉　沾洲
初ゆきとともに一里塚　芽山子
初雪の海に音なきもみぢ船　大雪
もみぢ葉の奇麗の熟の二つもの　渓梁
寛永の東の比叡の雪ほめ　新栖
初雪の甲にあまれる亀　白雲

初ゆきやいまさく枯葉ふまねしら　阿誰
佐山もとかくゆく鳥の初時雨　青屋
橋ひくう枯藤の霜の原　諫子
梅ひらきの蕭洞庭　皮草後尼　貞心
くまゆきやくつかぬ草の枯葉　下野　吾老
初雪や馬ハくもれる枝　文樓
ぬれくすと鶯ハ紀時雨ふ　齋
室咲やわれのうかひとのまく　如口

世庵一日春ひく雪見の卯　蝦宮子
松風ハ答ふ庵ふ虎のゆき　青洲
木ゆふ[illegible]ハ片帆ふけ朝霧也　其風
山風の裏置ふのうつ時雨の卯　雲卿
花の庵入相ふ蔵葉う卯　百宇
埋めぬ[illegible]ハ風のうつ雪の竹　春潮子
[illegible]ハ氣の庵ふ塚の今鼎ふ　麥天
枯能の[illegible]ハ流水ふ[illegible]ハ仲の石　百里

道もれい行とうちす投頭巾　沾徳
遠山のうとうめるやうや初頭巾　畔李
発句なし
打ひしぎの法の頭巾やちやん袋　尼貞人
對めしく朝日くよん雪まろけ　文尺
片ふれいまうけるかう雪丸け　琵江
冬枯の奥いのるさ淀の家　紫傘
烟渦の諸とうちしかしかし　茅壺

冬山の角根つくしたる端女とも　禾舟
初雪の降るくあるくあるく人　山貢
うつ雪の姿しさ舎るぬるく声　茅山
冬茶屋の海ふのうもる蓋葉ふ　梁宜
山吹の陰も赤きの日の蓋ぬうの邪　其帳
古蓋ふの打葉奥ある小金山　昌夏
幸時夜雨
唐崎のわれ江の雫ふ邪　冲向
鶯ふの沐つれるさ園の初函　梅郊子

初雪や降りうづまいてぬるゝ　龍眠

ふる雪に降りこめられて入る帯風小夜の
竹を吹くなかは彼大復の朔風怒号
すさまじきもの　狂夫の叫び

晴んとして怒る初雪の竹折戸　龍眠

さゝてふ鶯の所振小春雪　習く

一時雨やうつる月の逸　今友以

ふけぬける人も時雨の鶴の音　万年

宮守の待の奥と削る落葉の邨　古友以

霜ふけの草履とゝ駄の郎島川　主色

うつむまふ犠輪のうなり　尾久

月雪の日を用ゐる狩音しられ　書来

風雲のしるしるなる脚のしやくなる
しるしるなる

松風しめられぬ　鹿の千鳥の邨　楽也

小提灯　柄ゝ提て川ちゝ　芙婦

冬籠所を理りの人なのゝ　松羅

うつゝ〳〵苦もる潜る時雨下　笠雨

[illegible]　百潭
[illegible]　茂陵
[illegible]　幸入
[illegible]　曲峩
[illegible]　茅檐子
[illegible]　我淵
[illegible]　宗梅
[illegible]　光車

雪の見[illegible]　行朔
[illegible]　後　盤谷
比良暮雪
[illegible]　茶外
[illegible]　冲雨
雪[illegible]　森羅
待[illegible]　青城
[illegible]　千里子
[illegible]　柳車

[illegible] 宝帯子

炭の木すゑ[illegible]風や大内行　幽山

[illegible]

[illegible]月前の[illegible]

[illegible]花入れ秋の草　来道

[illegible]殿[illegible]　流水子

[illegible]の[illegible]　小時雨　万字

[illegible]小[illegible]雪[illegible]　錢丁

鐘やのく世界[illegible]後花の雪　白清

[illegible]　百菴

風やま[illegible]の歌を宮く吟く　貞人

[illegible]の紙の余情の分　旦厚

谷[illegible]埋[illegible]高[illegible]建長寺　沾古

[illegible]は他人[illegible]　米勇

[illegible]馬士の中[illegible]時雨　水路

[illegible]の[illegible]　翠子

炭竈やかりの[illegible]　希凉

村長の藤後のうつる雪　篁　砂汀
冬川白し牡丹の形りの果　羊里
氏子の長者と母の浦風やさよ彫　彫工　魚川
山鹿の白雪の旦や翠簾のか　同　木童
関守の奥遠かしうる千鳥哉　默角
新月やくんぬれ松うつり　試川
髪ぬれ小ぶしの軍鶏取　米都

初しぐれ　春麿
月もうつりもうつる口寒し　青藍
初雪や六ぶ　寒さ新のあるかな　亀成
大雪の抛り捨てく火のさくかな　可容
松の今朝雪ぬきうるんあり　百太
冬籠の六万俳　富士郎うつ　花崖
寒梅の富のうつる音　米曉
撰人　長梢

実梅に墨かをるこいけり　青郊

けりけりと年の額の志賀の市　德元

金ぐるぐる冷すぐるの市車　常仙

反古さらさらの反故　松陰

# 江都俳諧宗匠

梅餅の乾鮭かを花咲かりけり　存義

ゆき家とく昆布八月八日　有佐

曲がり水流れ　ぐるかり目附役　平砂

枯れ枝に鶯奥かるる

ぐるぐるこ月やれぐるみ六日　米仲

海と蝶果て帆かけ日和の邪　祇巫
傘さしの花の休さを見るもう　買明
鶯の行かわるとめる日の南　樓川
雲の峰風れ抱つく山路かな　渭北
蚊やりの火の曲りと思ひもかな　湖十
雷の火の燈つくしかな　牡丹かな　旨原
牡丹見の文神とわるや臺所　紀逸
茶の親のうちやうかな雨　再賀

伊豆三嶋鶯の小幡と呼ばるく　珠来
東海寺あるく
禪の仮名に葉わるれとられもう　萬立
うぐいすと新わるるたとかな　超雪
やまとの人最もむくれる松の声　秀億
青くも美風うる度世界の橋　吉門
分別のうてはわれとも敵　嘉逸
蛙捨や月八津世ふまとられも　栖雀

めくるまゝ柳のうへや天河　書永
沙る夜や鶏しのぶく碪まゝ　雞口
ものうつ切やもゝ〻網代守　栁尾
温泉の海ゐるうへや霜さら　庭臺
ほゝやゝ代なゝ親の息　由林
川の雪林屋の柳可南　清泉
東西やゝ淮とゝ河の雪の音　蹕籬
温林も佛かなゝ松の食傳　田社

うゝ南ゝゝめく
寄れいまゝ夜毫の老の波　圖大
行ゝ人の市ゝのまゝや冬木立　海如
人ゝ小鶏ゝるものを河豚汁　露牙

先師六盆居士発句畧藻

増山新十里山なし　今朝霞

菓子やうちかの新の膝巻盤

きりぬき牛か喰ひしの宿の長

見しかの間と走みもの　蝦菜摘

鼻て知る花の中　将梅のうれ

泡塗の行りへい日取花の山

未発の月かいうやうかうかうと

樊　噌　資

きりかぶ廉きり　一世長寿

大象の傾所わゆく暑う所

竜臭や穴のいうれを嫌金路

好き蛍の呼ぶ蛙の暑う

君子必慎其獨

きりれて人かうちの星ふ

[illegible]扇駿河遠州甲斐信濃
朝[illegible]
[illegible]今や[illegible]
[illegible]日露[illegible]
葉ふ[illegible]今宵[illegible]月露天河
櫻[illegible]
[illegible]月[illegible]
[illegible]今[illegible]の馬い[illegible]

[illegible]
[illegible]
露[illegible]親の[illegible]菊の酒
[illegible]道[illegible]雪の人
[illegible]我月ハ僅鼻の先

校訂

拾遺

存義
采仲
渭北
再賀

萬立
秀億
嘉廷
由林
圖大
露牙

補闕

寶曆六丙子春

古友以紫傘壽來百宇

春来氏俳諧引

大史綠外川史表内

甚矣今之俳諧之行于世也上自公侯相將下至富商豪民及屠子乞丐之微靡然向風閨秀尼姑紅女娼妓往〻成家閨門簧鼓一世者茅葦輩出比諸雅頌得共警策也視爲靈蛇夜光家傳戸誦亡

是而千里置郵不啻古之所未聞好尚移
人其如斯邪聞之副墨之子西土之有俳諧
雜技之類爾東方國風之什有俳諧歌體
製大有逕庭云乎逕矣芙蓉子之不知時好
也殆乎亡人情其於俳諧薈乎亡知何知
所是非亦但不解事子雲加以老耄昧者

之固矣時師春来氏以斯技鳴東都曰今之
俳諧非古龍於彫虎於繡假令腹笥吻筆
泉涌之務舍古而今不可從矣毋乃吾力能復
古乎於是杜門謝客撰古上梓因門生慱多
者謁余一言遂援筆而成引援慱多居亡何
博多為異物且所授稿烏有頃致書請復

予〻曰吁春來不諏於智者諏昧者予已悲
博多之不造且愛久春來氏之好古乃塗抹數
語贈之亦但塞其責耳云年之十有一月
書芙蓉書樓寒燈下

芙蓉道人

寶曆六年丙子春

東都彫工　日本橋南三町目　吉田魚川
　　同　木童

江都書肆　本町三町目　西村源六
京都書坊　堀河錦上ル町　西村市郎右衛門